

**第 12 回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成 29 年度時点のものです。

名 称	さがえ西村山つるむらさき部会
所在地	寒河江市
応募タイトル	安全で安心な県内唯一のつるむらさき産地
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <p>(1)環境保全型農業、有機農業、販路拡大の取組み開始年</p> <p>「さがえ西村山つるむらさき部会」は、昭和 55 年に発足した寒河江市農業協同組合の「寒河江市つるむらさき部会」が母体となり、平成 6 年の西村山管内 J A の合併により平成 8 年に広域組織として発足した部会（会員：44 名、面積：168.2 a）である。</p> <p>持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律が制定されたことを受け、部会の取組みとして、平成 16 年からエコファーマー認定の取組みを開始した。</p> <p>(2)動機</p> <p>エコファーマー認定の取組みのスタートが部会員の健康増進を目的としており、当部会は安全な農産物生産を最重要視してきた。連作障害対策のための講習会開催、堆肥による土づくりなど、部会が行ってきている活動がエコファーマー認定制度の趣旨と一致していることや、常に家庭を気づかう主婦の視点からも安全・安心に対する関心は非常に高かったことから、農薬使用を減らした栽培や堆肥施用の計画を作成し、実践する取組みを行ってきた。</p> <p>(3)経営状況</p> <p>園芸作物（特におうとう）＋水稻の複合経営が主体の西村山地域において、つるむらさきは初期投資が少なく、軽量野菜で収穫も容易であり、所得率は約 50%と高い。ハウス栽培の場合、5 月～11 月の期間にほぼ毎日出荷でき、安定的な収入がある。</p> <p>(4)販路先</p> <p>販売先は市場と生協である。その割合は市場出荷が 8 割、生協出荷 2 割となっている。市場出荷の 9 割以上が県外出荷であり、多摩青果、千住青果、新宿ベジフル、横浜丸中青果等の首都圏市場への出荷を中心としている。</p> <p>(5)環境保全型農業直接支払交付金の参加状況</p> <p>取組みなし。</p> <p>(6)各種認証の取得状況等(エコファーマー、特別栽培農産物認証、有機 JAS 認証、GAP 等)</p> <p>持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律の制定を受け、当部会でも部会の取組みとして、平成 16 年からエコファーマー認定の取組みを行ってきた。平成 29 年現在、会員 44 名のうち 25 名がエコファーマーの認定を受けている。</p> <p>さらに近年、農業生産工程管理（GAP）認証という新たな流れの中で、平成 27 年度に山形県版 GAP を試験導入し、平成 28 年度から部会として取組みを始めている。</p>	

2. 取組内容

(1)実践している栽培技術や生産工程管理(GAP等)

つるむらさきは、適用農薬が少ないため、農薬を極力使用しない防除体系を確立する必要があった。そのため、環境にやさしい防除方法として土壌還元消毒・緑肥作物を活用したセンチュウ対策、防虫ネット・全面マルチ・粘着板等を活用したアザミウマ対策等を導入して対応している。

山形県版 GAP のモデル組織として平成 27 年度に部会で試験導入を行い、平成 28 年度から同生産者用チェックシートを活用した生産管理を行っている。



センチュウ対策の土壌還元消毒法



全面マルチ



アザミウマ等対策の粘着板

(2)地域や関係者との連携や集団・組織的な活動内容

販売拡大のためには「つるむらさきの調理法を消費者に向けて発信すべき」との会員からの提案を受け、食べ方の提案やのぼりを作成しPRを実施している。

また、地元学校に対しては、食育活動の一環として年に2回給食の食材として提供している。栄養価の高い夏の食材として認知されている。

(3)消費者・実需者との関わり、販路拡大の取組み

つるむらさきの消費拡大を推進するため、女性部会員が普段家庭で提供している料理をもとにオリジナルレシピを作成した。その中から、山形の夏の一品「つるむらさき入りだし」、食欲のない時に「つるむらさき丼」、冷やしても美味しい「つるむらさきのワンタンスープ」等々をレシピ集としてまとめ、販売促進に活用している。

出荷袋にはQRコードが記載されており、スマートフォンなどで一般的な調理法やレシピの情報を確認できるようにしている。



出荷姿



レシピ集の1品

(4)人材育成活動

農協婦人部での活動が母体となり組織化された生産組織であることから、女性リーダーの育成に努めてきた。

新規参入者や高齢化で品目転換を考えている方等に対し、初期投資が少ないこと、難しい技術

を必要としないこと、価格・収量が安定している品目であることをPRしながら、新規栽培者の掘り起こしを行うとともに、栽培講習会、圃場巡回などの機会を活用しながら、栽培者の技術習得に努めている。

3. 成果

(1)実践している栽培技術や生産工程管理(GAP等)の成果

○栽培技術

登録農薬が少ないため、センチュウやアザミウマなどの害虫が年々増加し問題となったが、土壌還元消毒・緑肥作物を活用したセンチュウ対策、防虫ネット・マルチ・粘着板等を活用したアザミウマ対策等、環境に優しい技術を導入した防除体系の確立により、害虫の被害は軽減している。

環境にやさしい防除技術を取り入れた栽培マニュアルを作成し、部会員に配布するとともに、栽培講習会や圃場巡回、出荷反省検討会において、栽培者に指導を行い技術の定着を図った。

○生産工程管理(GAP等)

山形県版 GAP に取り組むことにより、生産管理だけでなく、出荷・調整・梱包作業を行う施設での衛生管理や農薬のドリフト等の周辺環境への配慮、危険作業、服装といった労働安全にまで気をつけるようになった。

(2)経営上の効果

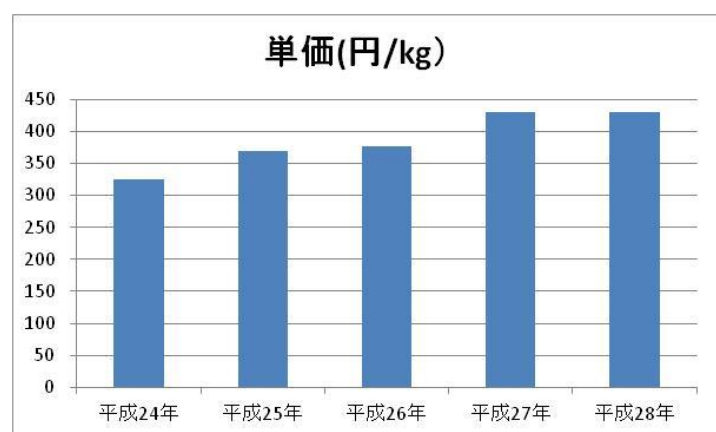
センチュウやアザミウマなどの害虫により、生産量や品質が低下し安定生産が危ぶまれるようになったが、環境に優しい技術を導入した栽培体系の確立により、害虫の被害が軽減し、生産が安定するようになった。

部会員の高齢化が進む中、予冷による鮮度保持、市場要請に対応した計画出荷により、出荷量を確保し、有利販売が行える体制づくりを行っている。

平成 27 年度には市場出荷日に合わせた集荷から毎日集荷に切り替えられ、集荷機会が増えることにより労働の平準化が図られるようになった。

また、集荷物を保管できることにより、市場からの数量要請に対し確実に納品ができることから、値決め販売等、有利販売が確実に行えるようになった。

これらの取組みの結果、単価も5年前に比べ30%以上向上している。



つるむらさきの販売単価の推移

(3)地域に与えた影響

つるむらさきにおいて、農薬の使用を極力減らした栽培技術を確立することにより、安定した生産が可能となったことから、新規生産者が安心して栽培に取り組めるようになった。

後作のサラダわさび菜も含めた経営を行う部会員もでてきており、「水稻＋さくらんぼ」という寒河江市の複合スタイルにプラス野菜という営農モデルを示すことができた。

寒河江市の基幹品目であるさくらんぼは、雨よけハウスのビニール張りなど高所作業があり、高齢者にとっては危険であることから、安全に作業が出来、初期投資も少ないつるむらさき栽培への関心が高まっている。

(4)人材育成活動の結果

女性の人材育成に努めてきた結果、歴代部会長にはすべて女性が就任している。部会の現三役（部会長、副部会長、事務局長）も全員女性である。

また、「全会員同じ野菜を植えて共通の話題を作ろう」との思いから活動を開始した経緯もあり、日々部会員が顔を合わせ、活発に情報交換を行っている。

4. その他特記事項

収穫作業の軽労化を目指し、発泡スチロールを用いた作業イスの製作、ボックス栽培、ベンチ栽培の試験、袋詰め作業の簡素化を図るための器具の導入等に取り組んできた。

現在は、平成 27 年度から灌水・施肥の軽労化を目指し、日射制御型拍動自動灌水装置の試験を行っている。

5. 今後の活動方向

近年、単価は年々上昇しているものの、高齢化による生産量の減少が懸念されている。

J A さがえ西村山の第 6 次広域・地域営農生活振興計画（平成 28 年度～平成 32 年度）では、つるむらさきを平成 32 年度販売高 57,750 千円を目標に掲げさらに振興することとしている。

つるむらさきの特性として過大な投資を必要とせず、継続的な販売収入が得られ、高所得が実現できることから、水稻＋さくらんぼの複合経営、西村山地域の農業スタイル強化のためにも、新規就農者にも参入を呼び掛け、新規作付けを拡大していく。

また、今後も女性の細やかな心配りを大事にするとともに、環境に配慮した農業の推進をしながら安全・安心な「つるむらさき」の産地拡大を図っていく。